



鈴木牧場

堀之内は大きく北部と南部に分かれ、南部の堀之内は多摩ニュータウン区域内となり開発が進んだのに対し、北部は度重なる開発の話にさらされながらも、昔ながらの里山と谷戸田の風景を残している。早くから酪農も盛んで、現在でも数件の酪農家がある。発掘調査によれば、今から約五千年前の縄文中期、堀之内のこの地区では最大の集落が営まれていたことがわかっている。堀之内地区は大栗川流域を支配する中核的な存在として、竪穴住居跡が確認されながらも、徐々に丘陵が削られ、住宅地が拡大している。しかし、台地下の泥炭層からは植物の化石もたくさん発見されている。今とは比べものにならないほど、豊かな森があったことが想像できる。

◇散歩のみどころ

京王相模原線の堀之内駅から、北側の界隈凡そ5kmの行程。

駅北口から道路を渡ると南八幡宮である。神社から都道百五十五号線に出て、ニュータウン通り、大栗川、野猿街道を横切る。トンネルの手前が北八幡神社である。更に北へ歩くと酪農を営む家々が見えてくる。牛舎を見ながら、山裾の道を東へ歩く。酒飲み地蔵のある阿弥陀堂。その先には里山を保存した堀之内寺沢里山公園が整備されている。更に、野道を東南方面へ歩くと保井寺に着く。新撰組隊士の墓に詣でて、住宅地の中を東へ。少し歩いて、北へ向かい愛宕神社の参道を登る。参拝を終え、途中炭焼き小屋を見ながら野猿街道を南下する。大栗川の馬場橋と新道橋の間の洗馬川公園、引切公園を見て、番場公園で小休止。そして大栗川の辺りを歩き、京王線堀之内駅付近で解散。

①京王堀之内駅

堀之内三―二十四―四

昭和六十三年（一九八八）五月二十一日開業した。当初の計画では、堀之内に駅を置く計画はなかったが、住民の度重なる嘆願の結果、設置が決まった。ここは由木平と呼ばれていて、建設工事中人骨が多数出土し、殺人事件かと大騒ぎになったこともあった。やがて縄文、弥生時代の人骨と判明し、古くから人が暮らしていたことがわかった。駅名も堀之内にするか、別所にするか、かなりもめたようであった。結局堀之内になったが、京浜急行の堀之内と区別するため、京王堀之内となった。橋本まで延長され、横浜線と接続したのは平成二年（一九九〇）三月三十日のことである。



京王堀之内駅

②堀之内の南八幡宮

堀之内三―二九

祭神 応神天皇（おおじんてんのう）
社宝 寛永六年、明暦三年、宝永七年、安永三年の棟札四枚
例祭 八月三十日

寛永六年（一六二九）十月十三日、井草小田肥後守、横倉伊予守の兩人が小田野源太左衛門の援助により社

殿を創建した。明歴三年（一六五七）四月、宝永七年（一七一〇）四月と安永三年（一七七四）四月に造営した。その後、昭和十六年に本殿覆屋並びに拝殿を再建した。

境内裏には笠付き角塔の「大乘妙典千部塔」がある。正面には「天下泰平 行者 奉納 大乘妙典日本回国 国土安全 佐平次」右面には「時寛政十一年 己未十一月吉日」左面には「武州多摩郡堀之内村 施主 村野佐次右衛門」と刻まれている。

また、参拝順路入口の右側に火袋が付いていたと思われる「秋葉大権現」と刻まれた角塔がある。右面に「嘉永□年三月吉日」、左面には「武州多摩郡堀之内村・・・江戸麹町三丁目 山下栄蔵」とあるが判読できない。



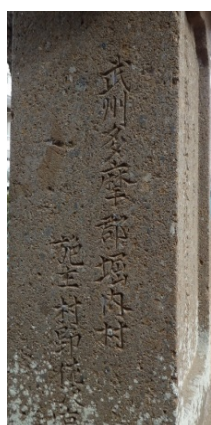
南八幡宮本殿



南八幡宮鳥居



秋葉大権現



笠付き角塔の大乘妙典千部塔
写真 左面 千部塔 右面

おおぐりがわ

③ 大栗川

柚木地区鍮水の御殿峠を水源とし、東に流れ、多摩市に入り多摩川に注ぐ。流長十五・九㎞、流域二十五・六㎞。大庫裡川とも書く。上流は鍮水川ともいう。多摩ニュータウン計画地域の北側を流れ、支流とともに柚木地区全域の水を集めている。大栗川のほぼ全域に渡って河川改修工事が終わっている。名の起こりとしては、次の様な説がある。

その昔、今の百草園あたりに源氏縁の真慈悲寺という寺があった。廃寺となり、幻の寺といわれていたが、この寺の庫裡の付近に豊富な湧水があり、この流れを大庫裡川と名付けたという。やがて、大庫裡が大栗に変わったという説。

また別説では、大栗川流域には栗林が多く、秋になると地面に落ちた栗が風雨で川に落ち、上流から沢山流れて来たから付いたともいう。



大栗川
左 太田川 右 大栗川

④ 堀之内の北八幡神社

堀之内二―八

祭神 菅田別尊

(ほんだわけのみこと)

社宝 木造御神像一体

例祭 八月三十日

創建年代は不明だが滝山城主大石定久の孫、大石宗虎が奉斎したともいわれる。また、井上七兵衛という者が木曾義仲公追善のため社殿を東北(鬼門)に向けて建立したとの伝承もある。



北八幡神社入口

慶長元年(一五九六)社領九石三斗を受けていた。昭和三十七年(一九六二)八月覆屋を修理し社殿を造営。境内には「文政六未十二月」(一八二三)と刻まれた常夜燈と「文政十二 四月」(一八二九)と年号の刻まれた二基の常夜燈と三基の船形地蔵が祠に祀られている、まん中の地蔵が「安永二 癸巳 霜月」(一七七三)、右の地蔵は「寛保四年 子歳正月」(一七四四)と刻まれていたが、左側の地蔵の文字は判読できない。



新旧の鳥居 中央は本殿



北八幡神社鳥居



舟形地藏尊全景



本 殿



左右の常夜燈



舟形地藏尊

●縄文時代

北八幡神社から東を望むと眼前に巨大なマンションが見える。この下には、多摩ニュータウンNo.七二遺跡が埋まっている。平成十二年（二〇〇〇）に発掘された。縄文中期の勝坂式土器（相模原市下溝口）や、六十kgもある巨大な石棒が出土している。竪穴の数は、重複しているが、二百六十余りが確認された。青森の三内丸山遺跡でも、二百余といわれている。縄文中期の集落がここにあった証である。今は小さな縄文公園となっている。



縄文中期の居住跡

⑤鈴木牧場

八王子市堀之内八六二一

多摩地区で酪農が始まったのは、明治四十年代、由木の井草甫三郎（ほさぶろう）という青年が、千葉からホルスタイン種をこの地に導入したのが始まりだという。現在、堀之内地区には井上家、鈴木家、萩生田家の三軒がある。鈴木牧場では、東京酪農組合を通じて茅ヶ崎の明治乳業へ、一日五百kgもの牛乳を出荷している。この地区は多摩ニュータウン十九住区と呼ばれ、当時の美濃部都知事は酪農も含めて、ニュータウン化すると宣言した。しかし、酪農家が住む地区だけニュータウン化がなされず、貴重な里山が残ることになった。当時この地区には十一軒の酪農家があった。

現在、鈴木牧場は「**YUGI MURA Farm** お
っさん牧場」と統合し、酪農は縮小

傾向にある。



路傍にある双体道祖神

⑥ 龍生寺・阿弥陀堂

堀之内六一八

通称地藏堂。境内にある宝篋印塔には「南無阿弥陀仏」の他、一遍上人の名が刻され「寺沢、引切念仏講中 文政十二巳丑八月吉日」とある。この文政十二年（一八二九）は一遍上人没後五百四十年忌にあたり、年の干支を同じくする。碑面には、「寛政八丙辰年」（一七九六）と刻まれ、ほかに「信州高遠 石工 團藏」と

ある。八王子市文化財指定。

龍生寺と阿弥陀堂についての詳しい由来や記録はない。伝えによると江戸中期の寛政年間（一七八九〜一八〇一）土地の鈴木與五兵衛なる者が道端に倒れている旅人をみつけ手当をした。その旅人は江戸の大棚の主人だった。主人は救ってもらったお礼に與五兵衛の土地に阿弥陀堂を建立した。與五兵衛は阿弥陀堂を龍生寺と改め崇拝した。小さなお堂の廻りは数々の石造物で囲まれ、宝篋印塔、法華經一千部供養塔、石灯籠などが集落の念仏講中の人たちによって守り続けられている。境内で目を引くのは、笠を被った等身大の「酒飲み地藏」と呼ばれる鈴木與五兵衛坐像だ。高さ二百九十cmの砂岩製で、基礎を高く造る江戸中期頃の様式をよく伝えている。酒飲み地藏といわれる由縁には諸説あるが、与五兵衛は阿弥陀堂ができる前は酒飲みで、それを改められるようにとの願いを込めて建てられたという言い伝えが

ある。

●酒飲み地蔵

阿弥陀堂の周りには丸彫りの立像、坐像、舟形浮彫りも含めて、四十一体の地蔵がある。阿弥陀堂の四面に六地蔵になるように、配置したようだ。六地蔵とは、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天井の六道すべてにいる人を救ってくれる地蔵である。この阿弥陀堂の前には、二・五mの大きな地蔵菩薩がある。笠をかぶっているが、笠は後から置かれたものである。石材は伊奈石のようである。優しいお顔が印象的。酒飲み地蔵と呼ばれるようになったのはそう古いことではないらしい。近くの鈴木氏の話では、松木の井草家から嫁いできた祖母が、このお地蔵さんにお酒をお供えしていたという。



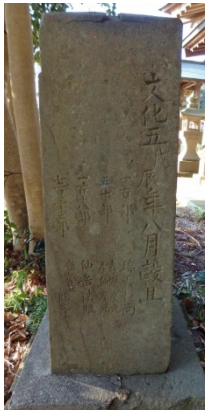
酒飲み地蔵



●宝篋印塔

かなり形は変形しているが、江戸時代特有の宝篋印塔が、酒飲み地藏の後ろに立っている。高さ二百九十cm、幅百二十五cmにおよぶ巨大なものである。宝篋印塔特有の、隅飾突起がなく、笠が変形し、上部の相輪はすでにない。「寛政八 丙辰 八月 万徳」(一七九六)と年号が入っている。「信州 高遠 石工 團藏」と石工の銘も入っている。これと対を成すのが、由木の玉泉寺の宝篋印塔である。これにも「石工 團藏」の銘が入っている。年代も「寛政十」(一七九八)と刻まれている。信州高遠の石工集団が、全国を回って作っていたと言われている。「金百疋 当谷新右衛門 母」と刻まれており、「百疋」とは金一分で、現在の価値は二百万円ほどである。

宝篋印塔とは、宝篋印陀羅尼經というお経を埋めて、その上に建てた石塔のことである。本来ならば、釈迦の骨、舍利を埋めて、五重の塔(インドではストウーパという)を建てるのだが、時代が下ると舍利も手に入らなくなったのでお経で代用したのであろうか。寺にとつては、塔が最も重要だったといえる。



法華經一千部供養塔



宝篋印塔



堀之内寺沢里山公団管理棟

⑦堀之内寺沢里山公園

堀之内寺沢に、自然の里山を残そうと、平成十九年四月開園した市の公園である。公園の面積は五・二haで、栗林や棚田などがあり、遊歩道も完備されている。また炭焼き小屋や野菜園もあり、収穫された物は安く販売されている。また、体験農業も出来るよう整備されている。

公園の周辺地区は森林が伐採され、団地となっている。里山を残す貴重な公園となっている。

● 諏訪大社の祠

龍生寺阿弥陀堂から古道を通り、保井寺（ほうせいじ）へ行く途中の道端に諏訪大社を奉った祠が建っている。堀之内東山もりみの公園入口付近である。以前は農道の脇であったが、今は拡張整備された都市計画道路や分譲地の中に整然と安置されている。



東山もりみの公園内にある諏訪大社

⑧ 龍澤山 保井寺

ほうせいじ

堀之内五四七

宗派 曹洞宗

本尊 虚空蔵菩薩（本堂）

如意輪観音（観音堂）

寺宝 尾形光琳作と伝わる奥絵

樹齢四百年以上の五色椿

開山 本寺永林寺四世妙庵長銀尚

開基 井上掃部之輔頼秀

開創 天正年間（一五七三〜九二）

元は鳳栖菴（ほうせいあん）と称

し虚空蔵堂であったが、天正年間末

期に開基の井上頼秀が本寺永林寺四

世を迎え「井上才保ッ寺」即ち、「保

井寺」として現在に至っている。

本堂脇の観音堂の如意輪観音は、

武相卯年観音第十二番札所となっ

ている。（十二年に一度卯年に開帳）こ

の観音様は乳の出が良くなる「乳観

音」として信仰されている。

また、山門の両脇には二本の椿が

ある。一方は樹齢五百年といわれる

古木で日本最大と言われている五色八重散り椿であり、もう一方は日本国内で保井寺のみに咲く大輪の八重椿で保井寺椿という個別種である。三月頃になると色鮮やかに咲き、人々の目を楽しませてくれる。

本堂裏の墓地には新撰組の斎藤一、諸斎の墓と、大石定久（木曾義仲の末裔）の伴として長谷戸（堀之内）に居住した保井寺の開基井上掃部之輔頼秀の子七兵衛の墓がある。



保井寺

● 観音堂

堂内には四百年前の作といわれる如意輪観世音菩薩が安置されている。

今から約百年前に町田市小山田の寺で廃仏毀釈のため、壊される寸前のところを当寺の住職が愁いてここに安置したという。五十数年前のご開帳のとき、一つの手が消失してしまった。その十数年後のこと、堀之内を流れる寺沢川から無傷で発見された。さらに、平成十九年四月の法要終了後に両手はずれるアクシデントが起きたが、この度四百年ぶりに修復が終わり、新たに延寿、安産、除難の観音様として祀られている。



如意輪観世音菩薩

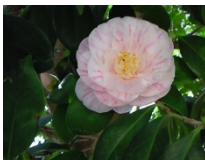
● 椿

寺境内に、二本の椿の古木がある。毎年三月から四月上旬には、五色の八重の花が咲き誇る。春の彼岸頃になると、お参りを兼ねた花見の人達で賑わう。

昔は、椿の花は首から落ちるから縁起が悪いといわれ、庭木として植えることを拒んだ時期もあった。しかし江戸時代には、大名などが挙って椿を植え、花を競った時期もあった。



本堂内



五色八重散り椿



保井寺椿



樹齢 500 年の五色八重散り椿

た。今では、庭木や垣根として植えられる、盆栽にして楽しむ人が増えている。

●石造物

観音堂前と梵鐘の脇には、普門品（ふもんぼん）供養塔や三界萬霊供養塔が安置されている。

普門品とは、観音経のことである。法華経の中の「観世音菩薩普門品第二十五」の一章が観音経である。

三界とは、欲界、色界、無色界のことといわれている。一般には、過去、現在、未来のこと。

また、延宝九年酉（一六八一）と刻まれた庚申塔も安置されている。三百三十年以上も前の庚申塔は、市内でも珍しい。



観音堂前の庚申塔など

●疣取り地蔵

疣取り様は全国に沢山ある。八王子でも数カ所見られる。保井寺の疣取り地蔵は江戸期のものである。十四躰の像が安置されているのは全国でも珍しい。疣は、おもに不潔から手足の皮膚に突起した塊が出来るものである。原因の多くがウイルスである。昔、この村で疣が大流行したことがあった。村人は小さな俵に小豆を包みお供えをし、疣取りを祈願したという。



普門品（ふもんぼん）



疣取り地蔵

●井上七兵衛の墓

井上七兵衛とは保井寺の開基井上頼秀の子で天文七年（一五三八）、大石定久の伴として堀之内長谷戸に居住したとある。事の真相はわからないが慶長三年（一五九八）関ヶ原の戦いのため徳川家康は農民に重い年貢を課した。翌四年（一五九九）七兵衛は年貢に苦しむ領民を見かねて由木十五ヶ村の各代表を別所の薬師堂に集め小嶋河内と共に「田畑の御縄改め」を願ひ出る話合ひをしたが、落合村の河井豊後が裏切り、惣百姓と相談し連判状の差し戻しを申し出した。このため、七兵衛と河内は猿丸山で打ち首にされ殿ヶ谷戸の松林に首を晒された。二日後に寺沢弥七、又の名を槍持ちの弥兵衛が刑場から遺体と晒された首を密かに保井寺に運び、境内に埋葬し領民と共に懇ろに供養したと伝わっている。



井上七兵衛の墓

●斎藤一諾斎の墓

さいとういちだくさい

斎藤一諾斎とは幕末の僧侶で新撰組に入隊し、後に多摩郡中野村（八王子市東中野）に定住し教員となる。僧名を秀全という。文化十年（一八一三）幕臣、鈴木伴次郎重斯の次男として江戸に生まれ、幼児から仏門に入り、諸所の寺で修行した。幕末期に甲斐国（山梨県）都留郡強瀬村全福寺の住職となった。慶応三年（一八六七）十月、五十四歳のとき新撰組隊士募集に応じ入隊、京に上って

局長付となった。

慶応四年（一八六八）一月（九月八日に明治と改元）鳥羽伏見戦を経て甲府に向かうとき勝沼の戦いで一番活躍をしたといわれている。その後土方歳三と共に宇都宮・会津と転戦したが仙台で新政府軍に降伏。明治三年（一八七〇）多摩郡中野村の全住院にむかえられ、大塚観音堂に寺子屋を開き地域の教育にあたった。病気のため甲州の正覚寺の住職に転じ、余生を過ごしていたが、一諾斎の開いた寺子屋が明治六年（一八七三）生蘭学舎（八王子市立、由木東小学校）となったのを機に再び中野の地に迎えられ、由木地域の教育にあたった。

明治七年（一八七四）十二月十八日六十二歳で病没。

明治十四年（一八八一）大塚観音堂境内にはかつて斎藤一諾斎を師と仰ぎ少年時代に恩恵を受けた人々、後に民権家として活躍した林副重、井上隆治、由木芳三郎など十名によ

つて斎藤一諾斎の顕彰の碑が建立された。

尚、観音堂に安置されている十一面観音像は鎌倉初期の作で東京都指定文化財となっている。



斎藤一諾斎の墓



如意輪観音

如意輪観音札

●金毘羅大権現

金毘羅とは、薬師如来の十二神将の筆頭の宮比羅（くびら）大將を指す。宮比羅大將は、ガンジス川に住むワニ、クンビールのことで、それが水神となったものである。

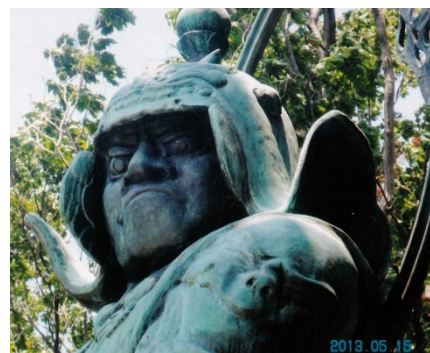
今から二百四十年前、讃岐の金毘羅山に詣でるのが大変なので、この山中に祀ったという。墓地の頂上には弓を構えた宮比羅大將のブロンズ像が立っている。金毘羅大権現は日本では、海上交通の守り神として船乗りに信仰されているが、この辺りでは、相模川か多摩川の水運に係する信者がいたのかもしれない。金毘羅名の神社は全国に六百社ある。



金毘羅大権現

⑨大正炭焼窯

愛宕神社への参道の途中の一面は「里山農業クラブ」で、すぐ近くには大正時代からある炭焼窯がある。愛宕神社の裏山から採った山砂土で作られたという。焼かれた炭は、盛んだった養蚕室の暖房などに使われていた。今は、里山を荒らす竹を焼いて、竹炭と竹酢液を作っている。竹炭は水や空気の浄化用に、竹酢液は害虫予防などに使われている。現在は整備が進んでいる。



金毘羅大権現



かつての大正炭焼

⑩ 堀之内の愛宕神社

堀之内二号の二五三

祭神 迦具土神（かぐつちのかみ）

例祭 八月三十日

創建 不詳

保井寺裏の小高い丘陵の中腹に建つ小さな神社で慶長元年（一五九六）八月二十四日社殿を造営されたところ。大正六年（一九一七）に新しく再建されたとなっているが、神社にまつわる由緒や記録はない。

「八王子発見（中島善弥著）」によると「石の階段を上ると途中右側に才の神を祀り、石棒なるもの三個並列している。社殿前に狛犬ならぬ狐体をした石造物二基、小谷田甚五郎、石燈籠は古く小谷田与左衛門と彫られている」とある。

社殿の周りは手入れが良く、地元の信仰が厚いことを伺わせる。

● 小さな山の上の神社

山の上の神社は、京都の愛宕神社から発生した火伏の神への信仰である。この信仰は、全国に千社ほどある將軍地蔵を本地仏とし、江戸時代修験者により全国へ伝えられた。秋葉神社も火伏の神を祀っている。火事はよほど怖かったのだろう。ここにはスリムで女性的な常夜燈（燈籠）が建っている。「慶応元 丑 八月吉日」（一八六五）と刻まれている。



愛宕神社鳥居



本 殿 内



堀之内愛宕神社と
スリムで女性的な常夜燈

⑪馬に関する公園

愛宕神社から南へ下り、野猿街道の駐在所前を越えると、洗馬川公園がある。さらに大栗川の番場橋を渡ると番（馬）場公園に出る。また堀之内バス停と大栗川の間には引切公園がある。この三ヶ所の公園は、昔から馬に関係した場所といわれている。

引切（ひつきり）公園は、山から切り出した材木を馬で川まで運び、筏に組み多摩川を経て江戸城まで運んだという。その他にも諸説がある。洗馬川公園は、汚れた馬を大栗川の水で洗い流した所という。

番（馬）場公園は、馬の放牧場、馬の競り市場、また馬を束ねる場所だったという説などがある。

いずれにせよ、この三ヶ所は大栗川の辺りに名前として残っている。この地区では馬が重要な役割をしていたと思われる。



堀之内番場公園



洗馬川公園



引切公園

◎参考資料

- ・八王子市史
八王子市役所
- ・八王子辞典
- ・八王子寺院めぐり
- ・埋蔵文化センターパンフレット
- ・歴史と浪漫の散歩道
八王子郷資料館
- ・八王子発見
中島善弥
- ・インターネット各ページ
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ
- ・昭文社